



スマホを 使いこなそう！ シニアも 特訓中！

↑使い方がわからないときは教え合うことも。使えるようになった人が教えるという繋がり。

初めは抵抗があった
町の健康づくり事業の申し込みや、料理のレシピを調べるのにスマホを活用している鈴木八千代さん(75)と小牧康子さん(72)。今や立派なスマホシニアである二人ですが、使い初めは抵抗があったといいます。「使い方がわからなくても気軽に聞ける人がいなくて」。困っ

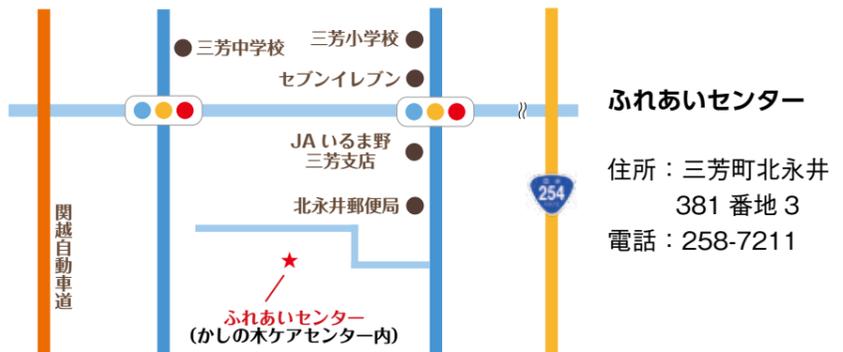
た二人は、頻繁に利用しているふれあいセンターへ相談に行きました。

いつでも相談に
二人の話を聞いたふれあいセンター所長の斉藤喜宣さん(42)は、スマホの使い方について親身に相談に乗りました。「スマホを使ってくれば情報を簡単に一斉送信できますし、写真もキレイなまま送れます。いつでも相談に来てほしいです」。利用者に「伝える」ような情報発信を突き詰めたふれあいセンターでは、スマホの使い方の相談に乗り、利用者との繋がる手段を提供することに。その後多くのシニアの人が、ふれあいセンターでスマホの使い方を習いました。

災害が起きたとき、情報収集、家族や友人との連絡手段として役に立つスマホ。スマホのことで困っている人、これからスマホに変えようか悩んでいる人は、気軽に使い方を聞くことができるふれあいセンターに、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

日常使いに便利だけでなく、災害時には情報を素早く集め、安全な行動に繋げることを手助けしてくれるスマホ。もはや必需品と言っても過言ではありません。

スマホシニア
今更スマホを使いこなせる気がしない――。インターネット、SNSなどを簡単に利用できるようになった反面、複雑過ぎて避けてきた人も多いのではないのでしょうか。しかし一方、スマホを自在に使いこなすシニアが三芳町では増えており、「スマホシニア」と呼ばれています。



【写真】 スマホを使いこなす「スマホシニア」の鈴木八千代さん(右)と小牧康子さん(左)。

繋がる。伝わる。

～災害が起きたとき、スマホが役に立つ～



【写真】 利用者にスマホの使い方を教えているふれあいセンター。スマホを使いこなせる利用者も増えてきて、仲間同士で教え合ったり相談したりしています。



害が起きたとき、電話やメールが繋がらない――。そうならないように。つながりを持って連絡を取る手段を持っているでしょうか。スマートフォン(スマホ)を使うと、SNS(ソーシャル・ネットワーク・キングダム・サービス)などを使って情報のやり取りをすることができます。

繋がるインターネット

電話とは別の回線を使うインターネットは、災害などの緊急時でも繋がりがやすい回線です。インターネットを利用したSNSは近年、急速に利用者数を伸ばしています。緊急時にも繋がりがしやすいSNSを普段から使い慣れることで、いざというときに慌てずに家族と連絡を取り合ったり、必要な情報を手に入れることができるようになります。

家族に伝わる方法を

家族とSNSの情報を共有しておいたり、グループを作って普段からやり取りしておく、緊急時にもスムーズに連絡を取